ト書き	雨月静奈	音響指示
	■1 導入 ～陵辱議事録のはじまり～	
		ブイイ……とローターが振動する音声。
感情を殺して 平静に	「ん……もう、録音、しているのですか……」	
	「承知しております。皆様には、逆らいませんわ…..あくまで、契約期間中は、ですが…..くっ……」	
	「それでは……皆様からのセクハラを……議事録として、口述記録させて頂きます」	
	「ただいま、私は、乳首に対する、セクシャルハラスメントを、受けております…..」	
	「皆様がデカパイと呼ぶ大きな乳房を、揉みしだかれながら…..」	
	「乳輪をなぞるように、ローターを擦りつけられて、じっくり乳首を、責められて、おります」	
	「……そっけない口調で、申し訳ありません。特になにも感じないものでして」	
ここ以降、喘ぎ声だけ 少しだけ甘く。	「……んっ。ただいま、役員の方から叱責を受け……ば、罰として、乳首をつままれて、しまいました」	
	「そして、くりくりと、乳首を弄ばれております。先ほどよりも、微かに大きく、硬く、なっている、そうです」	
	「ん……っ 勃起を認めろ、とのことですが……して、いません。私は本当に、なにも感じていませんから」	
	「……かしこまりました。皆様に、乳房を……失礼。デカパイ、でしたか」	
	「はい。勿論でございます。契約の通りに……下品でいやらしい肉体に相応しい、下品な呼び方を心がけます」	
	「サイズは……99センチメートルです。昨日、ご自身の手で、計られたはずでは？年齢のせいで、記憶力が落ちているのでしょうか」	

「んお……っ、ぶ、無礼な口を利きましたこと、お詫び申し上げます……んっ、ふうん……っ

「はい……反省の、姿勢で、ございますね。背筋を伸ばして、淫らなデカパイを強調….んっ」

「ええ。皆様の玩具にして頂く為に、ムチムチに育てたおっぱいです。どうぞ、遠慮なく、弄んでくださいませ」

「……いいえ？ 私は、デカパイによって職務を円滑に進めたことなどございません。私は….んんっ」

「……いいえ、前社長は、そのような方では、ありませんでした。今までお会いした、方々も….ふうおっ」

絶頂。初めの喘ぎ声
以外オホ感抑えめで

「くっ、おおお……っ♥ んふーっ、ふうぅーーっ……んっ、ふううぅーーっ……」

「失礼、しました。議事録を、再開します」

ローター音が止む。代わりに乳首をほじるくちゅ音。

「たっ、ただいま、勘違いの罰を、受けて、おります……♥ 乳首を、器具で、ほじられながら……」

「デカパイを、内側から引っ掻かれ……んおっ♥ 己の、いやらしさを……この肉体の、卑猥さを、思い知らされて、おります……」

「んん……っ♥ は、はい……もちろん、反省して、おります。復唱、します」

感情を殺しながら
少しだけ感じながら

「私は、ワイシャツがはちきれんばかりのデカパイと、タイトなスカートからチラチラ見えるデカケツで….」

「見るに堪えない卑猥な女体と、オチンポをイライラさせるすまし顔で、交渉を有利に進めてきた….薄汚い、淫売でございます」

「大学を首席で卒業し、この会社に就職できたのも…..このカラダで、大勢の殿方をたぶらかしたおかげであり…..」

「決して私の頭脳が優れている訳ではございません。私、雨月静奈は….体だけが取り柄の、能無しデカパイ女なのです」

	「ふーっ……♥ ふーっ……♥ そして……この会社を支えてきたのは、こちらにおわす役員の皆様方であります」
	「能無しデカパイ女の尻を拭ってくださり……誠に、ありがとうございます」
	「おっ♥ か、感謝の思いが、足りない、とのことで……くうっ♥ そんなに強く、揉まれてはぁ……っ♥」
	「あっ、ありがとう、ございます……。ありがとう、んんっ♥ ございま、すぅ……！」
	「尊敬すべき役員の皆様を、この体で接待するという、娼婦の身に余る、素晴らしい、職務を、与えてくださって…っ♥」
	「こ、これより……皆様の……おっ♥ 性処理を担当し、ダッチワイフとして、誠意を尽くします……」
	「鋼鉄の女秘書、改め……デカパイ便器秘書、雨月静奈……っ♥ 心より、感謝を申し上げます……っ♥」
	「ふぅーっ……♥ ふぅー……っ♥ ん……はい？ なんでしょうか……はぁ……」
	「念のため、申し上げますが……こちらは、セクハラを受けている……という、形式で、んっ♥ 録音された、データになります……っ」
	「つまり、こちらのデータの内容は……すべて、私、雨月静奈の妄想であり、実在の人物や団体などは、関係ございません」
呆れたように	「……これで、よろしいでしょうか？」
少し嘲笑うように	「……いいえ。皆様方らしい、保険のかけ方ですね、と。証拠を残したく無いのであれば、録音などしなければいいものを」
	「んあっ、くっ、んん……っ♥ ふーっ……、ふーっ……」
感情を殺した声	「契約期間中は、私を好きに弄んでくださって構いません。全てが終わった後、約束通り、経営権を譲渡して頂ければ…」
	「我々の関係は終了です。法に訴えることも、皆様方の情婦になることもございません。役員と秘書に、戻るのです」
	「ん……っ、何度も申し上げましたように……皆様の調教によって、私が契約内容を変更することなどございません」
	「必ずや、この契約を履行して……前社長の遺志を、守ってみせます。それが……私にできる、せめてもの恩返しですから」

全くの平静で

「……かしこまりました。明朝まで、約8時間の延長でございますね。ええ、まったく問題ありません」

「例え、どれほど辱められ、責め立てられようとも……私は、あなたたちのモノにはならないのですから」

■2 デカパイ秘書の日常 恥辱のセクハラ報告

聞こえるか聞こえないかの音量でローター音をお願いします

一日中セクハラされ
疲れている

「ふーっ…… ふーっ…… それでは……本日の議事録を、記録、開始します……」

「まずは、録音を停止していた……んっ。昨夜未明から、本日朝までの、調教の記録を……」

「二時間にも及ぶ、乳首責め。ねっとりと、じっくりと、筆によって、薬物を塗りたくられて、合計、七度の絶頂…いいえ、乳首アクメを味わい……」

「そっ、その後は……搾乳機を使用した、乳しぼり……いいえ、デカパイ、搾り……50ミリリットルもの母乳を搾り取られ、四度の噴乳アクメ」

「そして、母乳……んっ！ ド、ドロドロデカパイミルクを、皆様に口写しで振舞った後は……爆乳パイズリ奉仕の練習……」

「さらには……う……っ♥ 失礼しました。ノーブラ雑魚乳首が、シャツに擦れ……くっ……」

「はい。皆様のご命令通り、本日はノーブラで、胸元をざっくりと開けてデカパイを見せびらかし、ミルクの香りをぷんぷんさせながら、業務に励んで参りました」

「問題は、ございません。私が露出狂の淫売だと、ありもしない噂をバラまいて頂いたおかげで、社員の皆様は…んあっ」

「申し訳ありません。訂正、致します。ありもしない噂などでは無く、紛れもない、事実で、ございます」

「私、雨月静奈は……っ、デカパイ丸見え娼婦コーデで、谷間を見せつけオフィス街を練り歩き……」

「殿方の視線で、体を火照らせる……ドスケベ露出狂の、淫売で、ございます……」

	「私のあさましい本性を見抜き、相応しい振る舞いを教えてくださった皆様方には、感謝の言葉もございません。本当に、ありがとうございま、.す…っ」
	「そして、午後は会議に出席し……皆様のご指示通り、ボディタッチに加え、デカパイを押し付ける淫乱交渉で、見事に契約を勝ち取りました」
	「はい……汗に塗れたムレムレの谷間と……尋常ではない短さのミニスカートのおかげで、ひどい淫乱に見えたようで….」
	「誰もが、私に釘付けでした……その後、しつこくホテルに誘われましたが……なんとかお断りして、今に至ります……」
	「ふぅ…… ふぅ…… ところで……報告も終わりましたので、性器……いえ、オマンコのローターを、止めて頂いてもよろしいでしょうか」
	ここからローター音が大きくなる
少しだけ快感を感じる	「ええ……とても、苦しめられました。私が話す時に限って、最大出力になるものですから….」
	「はい。極力、声は抑えましたが……人事課の係長……彼には、気付かれていたようです」
	「いつの間にか背後に近づかれ、ショーツの上から、股間をまさぐり、とん、とん、とローターを….」
	「ふ、おッ♥ は、はい。そのような手つきで……くおッ♥ クリ責めローターを、刺激され……っ♥」
	「ふーっ、ふーっ……う、打ち合わせを装いながら、彼は、何度も、私の股間を、弄び……んっ♥」
	「さらには、シャツの内側にまで、手を伸ばして……んあッ♥ そ、そうです……♥ そのように、乳首を……おお……っ♥」
	「乳臭いぞ、と耳元で囁かれました。滲み出たデカパイミルクが、胸の谷間で、汗と一緒に、蒸れているぞ….と……♥」
	「んあッ、ど、どうぞ……っ♥ こちらが、その淫らな香りに、なります……んっ、くううぅ……あッ♥」
	「はい……彼は、自分でも、デカパイミルクを、搾ろうと……ぎゅううっ、と乳房を、強く、揉みしだいたり……んんんッ♥」
	「くちゅっ、と乳首を、爪先で、潰したり……私の、ウシ乳をっ、我が物顔で、いじくり回し……んッ、ふおおッ」

「は、はい。な、なんとか、オマンコは守り通しましたが.....おッ♥ 他の場所は、徹底的に、愛撫を.....んッ」

「申し訳ございません。役員専用の肉便器でありながら、他の社員に肉体を弄ばれ、申し訳、ございません...」

「ですが.....私が淫乱の露出狂だと社内に知れ渡ってしまった結果.....隙を見てはセクハラをする者が、後を立たないのです」

「いいえ、まさか.....この程度のことで、契約を見直すつもりは.....ふぐうぅ.....ッ♥ んっ、ゆ、指、を.....っ♥」

手マンのくちゅ音

「い、いえ.....手マン、ありがとう、ございます.....っ♥ は、はい.....んふ.....っ♥」

「もちろん、理解しております。私が、毎日のようにセクハラの標的になり、肉体を弄ばれるのは...」

「私が、セックス専用ボディの、人間ダッチワイフ、だからでございます.....ふおッ♥ 」

「社員の皆様は.....はぁッ♥ 私が垂れ流す牝の香りに侵された、被害者であり.....っ♥」

「す、全ての責任は、私のスケベな肉体にありますことを、ここに認めます。申し訳、ございませんでした...」

ぱちぱち、とバカにしたような拍手。

「ふぅーっ.....♥ ふぅ..... お褒めに預かり、光栄でございます。皆様方から与えられた台詞を覚えた甲斐があるというものです」

かなり感じているが
意地で我慢している

「んお゛.....ッ♥ は、はいィ.....そ、そちらが、ん、あ.....ッ♥ わ、私の、Gスポット、でございます.....ッ♥」

「せ、先日のオマンコ開拓合宿にて.....んおッ♥ 膣内の全てを、つまびらかにされ.....皆様に、バレてしまった.....」

「わ、私の、オマンコの.....おおッ♥ 最大のッ、急所であり.....雨月静奈の、アクメスイッチで.....ふおッ♥ おッ、お゛おおお.....ッ♥」

「ふぅーッ.....♥ ふゥーッ.....♥ た、ただいま、Gスポアクメ、キまりました.....♥ ありがとう、ございました.....」

「んっふっ♥ い、いえ……申し上げた通り、皆様以外の殿方に、オマンコを使わせては、おりません….ほッ♥ 本当っ、です……ッ♥」

「くあッ♥ ちっ、違い、ますっ♥ 本日のオマンコが、いつも以上に、ぐちょぐちょに、蕩けて、おりますのは….」

「……ここ数日、一部の女性社員から、性的ないじめを、受けるようになりました」

「元より、彼女たちからは無視されたり、些細な嫌がらせを受けていたのですが….私が皆様の手に落ちてから…..いえ、本性を表してからは…..」

「休憩時間などに、性的ないじめを…..はい。皆様が仰るところの、レズリンチを、受けるように、なったのです」

「ん……かしこまりました。詳細な説明を開始致します。それでは….こちらのオマンコを、ご覧ください」

「はい……肉ビラが、ひどく充血し腫れ上がっております。これが、執拗なオマンコリンチを受けた、証拠でございます」

「んっ♥ ふーっ……♥ ふーっ……♥ 彼女たちは、休憩時間になると…..私を倉庫に連れ込み、数人がかりで組み伏せるのです」

「は、はい……！ このように、机に、上半身を押し付けられて…..太ももをこじ開け、ショーツを、脱がします……」

「下着は、そのまま没収されます。私が、殿方を誘惑し、社内の風紀を乱した証拠として….んぐっ」

「そ、その通りです。彼女たちはまず、スパンキングから始めます。私を苦しめる為に、毎回、様々な道具を、用意して…」

ここからスパンキング開始。悲鳴に合わせて適宜SEを挿入して頂けますと

「むぐっ、分厚いファイルや……ふっ。バドミントンの、ラケット……くっ。社内の備品を集めては、私のデカケツで…..おっ。叩き心地を、確かめます」

「も、申し訳、ありませ、んっ。皆様専用のデカケツ、なのに….ふっ。真っ赤になるまで、叩かれて、しまって…..おっ」

「十分ほど、叩かれ続けると、オマンコチェックに移ります。……んふっ♥ はい。私が、マゾの淫売であることを、証明する為に…..」

「デカケツスパンキングで、マン汁を漏らしているか……んくっ♥ 肉ビラを擦って、確かめるのです」

「い、いいえ。ふお……っ♥ その時は、漏らして、おりませんでした…..おっ。で、ですが……」

「執拗に、オマンコを擦られて……その刺激で……んくっ♥ はい。無様に、牝汁をこぼしてしまったのです」

スパンキング終了。手マン再開

「汚い牝豚、性犯罪者、女の恥……マゾ豚の汚名を着せられた私は、散々に罵られながら……おおっ♥」

「は、はい。まさしく、このように……ふうっ♥ 沢山の指で、一斉に手マンされる……オッ♥ オマンコリンチをっ、受けたのですぅ……っ♥」

「ほっ、細い指を、奥まで、挿入して……体の震えから、私の急所を、一つ一つ、解明して……ほお……っ♥」

かなり声も震えて
限界が近い

「必死に、声は、抑えましたが……っ♥ 弱い所を、突かれる度に……あッ♥ アクメ汁をっ、撒き散らしてしまいィ……♥」

「結果……皆様だけが、知るべきであった、Gスポット……アクメスイッチの場所を全て、見つけられて……んおッ♥」

「なっ、何度も……何度もっ♥ 指レイプで、潮噴きアクメを、繰り返して……そ、そうです。終わら、ないのです……ッ♥」

「男性であれば、射精と共に、ふっ♥ せ、性欲は、収まります……♥ しかし、彼女たちに、終わりはなく……」

「私がアクメを迎えようと、ただひたすらに、オマンコをいたぶり続け……ガクガクと悶える私を見て、楽しそうに、笑って……♥」

「もっとっ、深く……ふおおッ♥ もっと、激しく……オマンコリンチをエスカレートさせるるの、ですぅ……ッ♥」

「ん゛ッお♥ おッ、仰る、通りでッ、ございま……ふう゛ッ♥ 彼女たちも、私のッ、牝の香り、被害者で……ッ♥」

「すべての責任はッ、あああ……ッ♥ この、いやらしいオマンコにッ、おうッ♥ アッ、アクメッ、があッ♥」

「申し訳、ございませんッ♥ 全身性器のオマンコ女でえッ♥ 社員の皆様を誘惑してえッ♥ ふお゛ッ♥ 本当に、申し訳、ございません゛んん……ッ♥」

「はぁーッ……♥ はぁーッ……♥ 最終的に……私は、休憩時間いっぱいに、手マンレイプを受け……ん……ッ♥」

微かに声を震わせ 平静を取り戻していく	「自分のアクメ汁で汚した倉庫を、清掃した後.....業務に、戻りました.....以上が、本日の、レズリンチ報告に、なります」
平静に戻る。	「.....はい。仰る通りで、ございます。皆様専用のオマンコ奴隷でありながら、女性社員のストレス発散アクメ玩具に成り果ててしまい、面目次第もございません」
	「はい？ 名前、ですか？ 私を無断使用した女性社員を.....なるほど。勿論、拒否いたします」
	「皆様が所有される権利は、私の使用権のみでございます。他の社員につきましては、契約の及ぶところではありません
	「.....どうぞ、好きになさってください。そのディルドーで何度嬲られようと、契約内容が変わるわけでは....んッお゛おおぉ.....ッ♥」
	ぐちゅちゅっ、とディルドー挿入のくちゅ音。その後も適宜くちゅ音挿れてディルドーレイプを表現して頂けますと
	「ふお゛ッ、おお゛ああ.....ッ♥ ふ、ふとッ、ふといッ♥ おッ♥ えッ、抉られて、いるような.....ッ♥」
	「くはあッ♥ ぜ、絶頂.....いえッ、アクメするッ♥ んぐ.....ッ、ひッ、あああああァーーッ.....♥」
	「あ.....ッ、は.....♥ た、ただいまッ、アクメを、致しました.....♥ と、止めッ、くおおおォ.....ッ♥」
	「おうッ、ううううぅ.....ッ♥ か、かしこ、まりましたァ♥ あッ、おぉ.....♥」
	「レッ、レズリンチッ、以上に.....ッ♥ アクメッ、するまで.....ッ♥ んぐッ♥ ディルドーレイプ、続行ぉ.....ッ♥」
強い意志を感じさせる	「もっ、問題ィ、ありません゛.....っ♥ は、話すことなど何も、ありませんから.....んっお゛ッ♥」
	「どれほど、急所を抉られようと.....オマンコ汁をッ、搾られ、ようとォ.....♥」
	「私が、皆様の思い通りになることは.....♥ ございません、から.....んおおおッ♥」
	「あっぐっ♥ ふう゛んッ♥ おお.....ッ♥ イ、イクッ♥ アクメをっ、ほおおぉ.....ッ♥ おッ、おおぉ.....♥」
	「はうッ♥ も、申し訳.....ふうッ♥ んっふうッ♥ ひい゛ッ、そ、そこが、最もッ♥ おッ♥ 最もぉ.....♥ おッ、ふおおおぉーーッ.....♥」

■3 マンコにされた唇 目隠しフェラチオ精液テイスティング

一定のテンポを保った 機械的なフェラ音で 余裕を表現して頂けます♪	「じゅるっ、じゅるる……っ、ふむっ、はむっ、ふぅ……ふぅ……はっ、ふっ……むむっ、じゅるる……っ」
	「むっ、ふ……っ、はむんっ♥ じゅぞぞ……じゅぽんっ！ じゅるる、じゅぼっ、じゅぼ……ッ」
超事務的に	「(射精) む……っ、ん、ん……(飲み込む)。ご馳走様でした。本日も、濃厚な精液をありがとうございます。それでは、次の方、どうぞ」
	「……失礼。フェラチオ奉仕にかまけ、議事録の記述を、忘れておりました。それでは….まず、口便器宣言から」
	「本日も、薄汚い口便器のご利用、誠にありがとうございます。皆様の貴いザーメンをお恵み頂きまして、心より感謝申し上げます」
	「私のような牝豚の口は、かしこぶった言葉を吐く為ではなく、殿方のオチンポをむしゃぶる為にございます」
	「この口は、マンコでございます。卑猥で、下品な、ザーメンこき捨て便器でございます」
	「本日も、皆様のオチンポに射精して頂く為、一生懸命に口マンコを引き締め、フェラチオに励むことを、ここに誓います」
	「……それでは、フェラチオに戻ってよろしいでしょうか？皆様全員のオチンポをむしゃぶり尽くせ、とのご命令ですので」
	「かしこまりました。それでは失礼します。は、む…..むちゅっ、ちゅっ、じゅ、るるるぅ…..っ」
	「んっちゅっ、じゅる……っ、はっ、む……っ じゅるるっ、んっ、ちゅう、ちゅるる…..っ♥ はっ、ふうむっ……」
	「じゅぷっ、じゅるる……っ、んっくっ、ずちゅっ、んちゅっ！ちゅうぅ～～っ♥ ぐっ、ちゅるるるぅ……」
	「んっぷ……(射精) んふぅ……んふぅ……はい、ご馳走様です。本日も、濃厚な精液をありがとうございます」
	「それでは、次の方、どうぞ。……いえ。流れ作業など、滅相もございません。私は、一人一人、誠心誠意のご奉仕をさせて頂いております」

	「皆様に仕込まれたフェラチオ……いえ、オチンポしゃぶりテクニックを駆使して、最高のロマンコ体験を提供しております」
んあっ、で尻を叩かれる	「皆様の迅速な射精は、その証拠ではありませんか？……んあっ。申し訳、ございません」
	「皆様が早漏である……と誤った印象を与え兼ねない表現を致しましたこと、心よりお詫び申し上げます」
	「はい、仰る通りでございます。先日のディルドーレイプによるアクメ拷問で、私のオマンコは常時アクメ汁を噴き出す有様で…」
	「そんなオマンコを休ませる為、フェラチオ・デイを設けてくださった皆様には、感謝の言葉もございません。本当にありがとうございます」
	「……はい？ ザーメン、テイスティング、ですか？」
電気を流された時は 女の子っぽい悲鳴で	「目隠しをしたまま、フェラチオ奉仕をして……どなたの精液か当てれば良いのですね……？ 間違った場合は……ふおおお゛っ♥」
	ここより電気ビリビリゲーム。悲鳴に合わせて弱めの電流音を適宜お願いします。
	「おっ、おおッ……♥ こ、これは……ッ♥ せ、先日の宴会で、使われた……んっ、あああンッ♥」
	「電流、罰ゲームで、ございますね……♥ んあッ♥ は、はい……静電気、などに、弱い、体質ですので……ひああッ♥」
	「んん……ッ！ も、問題、ありません。ザーメンテイスティングを、成功させればいいだけのことですから」
	「んむっ、ふーっ……♥ ふーっ……♥ お、オチンポ、ありがとうございます。もう、むしゃぶりついて、よろしいでしょうか？」
少しテンポが乱れた フェラ音	「それでは……はむっ、ふッ、じゅっぷっ♥ ふぐっ、むっ♥ んっぶ……っ じゅるるっ♥ ふっ♥ むむむっ♥」
	「んぷっ♥ はい、とても、美味しいです……はっふっ♥ んっ♥ はむっ♥ むっ、むふっ♥ うぅふッ♥ じゅっ、むむっ♥」
	「ふっ、じゅるっ♥ じゅ……っ、(射精)んん゛っ……んッ、んく、ん……(精液を飲み込む)」

	「ぷ、は……♥ 熟成された芳醇な香りに……カリ首の反った凶悪なオチンポ……こちらは……副会長の、ザーメンでございますね？」
	「……ひっぎ……っ！ い゛ィッ♥ し、失礼、しました……っ♥ はッ、あ゛……ッ♥ じ、GMの、オチンポ、でしたか……」
	「おッ♥ は、はい……毎日のように……ひッ、ザーメンを、お恵み頂きながら、テイスティングを、間違えるなど……ふッ♥ 口便器失格で、ございます……」
	「お゛っ、ビ、ビリビリ……ッ、どうか、ご容赦、ください……ひィッ♥ もう、間違え、ませんから……ッ」
最後は口にチンポを突っ込まれています	「ど、どうか……不出来な私に、オチンポしゃぶり女としての、おッ♥ 名誉挽回の機会を……はもう゛っ」
荒い呼吸をいりまぜる	「ん゛っも゛っ♥ はっふ♥ はぶッ♥ ふあっ、ありがと、ございますぅ……こ、今度は……はむっ♥ ふむっ♥」
荒い呼吸をいりまぜて余裕が無いことを表現	「じゅるっ♥ ぐっ、ほッ♥ じゅぽっ♥ んっお゛っ♥ はお゛むっ♥ むじゅるるッ♥ じゅっ♥ ふっ♥」
	「ふぐっ♥ ふっ、むうッ♥ はぶっ♥ ちゅっ♥ じゅるっ、ぐっぷっ♥ ふ、むッ、ううう……っ♥」
ゆっくりと味わう	「んんっふっ♥(射精) ふっ、んふっ、ふーっ、ふうーッ……♥ (飲み込む) 」
恐る恐る	「……若々しい勢いのある射精に、凄まじい精液の量、間違いありません。CMO、最高マーケティング責任者の…」
取り乱す	「ふお゛ッ♥ おッ、そ、そんな……ッ♥ た、確かに、おおお゛っ♥ くっ、ふひい゛いい……ッ♥」
	「はぁーっ……はぁーっ……す、すみません。目隠しを取って、確認させて、頂いても……ひゃああッ♥」
	「ひッ、いいンッ♥ い、いえッ♥ 滅相も、ございません……ッ！ 皆様方の、お言葉を、疑う、などっ、おお゛っ♥」
	「ちッ、乳首はッ、はあ゛ッ♥ よわッ、弱いのですッ♥ ふお゛ッ、あぁ……ッ♥ どうか、お許し……ッ♥」
	「ひい゛ッ♥ も、申し訳ッ♥ ひゃあ゛ッ♥ 申し訳っ、ございませっ、えああンッ♥ あひッ♥ いっ、ぎいいィ……ッ♥」
わりと心から謝る	「ふうーっ……ふうーっ……わ、私の、不見識を棚に上げ……皆様を、疑うような真似をして、申し訳ございませんでしたっ」

	「どうか、どうか……っ！ この、出来損ないの牝豚に、弁解の機会を、お与えください♥ 雄々しいオチンポを、尊いザーメンをお恵みください……っ♥」
	「んちゅ……ッ♥ あ、ありがとう、ございます……今度こそ、間違えません……！ よろしく、お願いしますぅ……♥」
超丁寧に ゆっくりと味わう	「んっむっ♥ はぐっ、ふぐぅ……♥ んふーっ♥ んふーっ♥ じゅぷっ、ぐむっ、んっふっ♥ んじゅるる……ッ♥」
	「んっちゅっ♥ んんっむっ♥ はむっ、む、ふ～～っ……♥ じゅるるっ、ぐっ、ぷ……っ♥ んっ、ぐっ♥」
	「むふ～～っ♥ うふ～～っ♥ んぐっ、ふうう……っ♥ うっむっ♥ んっ♥ ふくっ、んううう……っ♥」
	「(射精) んんん……ッ♥ んっ、ふううぅ……♥ ふーっ、ふーっ、くちゅ、くちゅ……(咀嚼音の後、飲み込む)」
	「……ごちそう、さまでした。チンカスに塗れた……濃厚な味わいのザーメン。こちらは、会長の雄々しいオチンポに、間違いございません」
	「……ふあ゛ああァッ♥♥ な、なぜ……ッ、あッひゃああッ♥ そんなっ、そんなはずうッ、うッ、あああンッ♥」
	「なっ、何かの、間違いです……ッ、ひっぎッ♥ 会長の、オチンポォッ♥ 一晩中、くわえたのに……いい゛いいッ♥」
	「ど、どうかッ♥ ああッ♥ どうかあッ♥ 目隠しを、取ってくださいっ♥ 私自身の目で、ご確認をっ、おおおッ♥」
	「んっぎっ♥ ひい゛いッ♥ いっ、いいえっ、そのような、ことは……んいい゛っ♥ ひゃああっ♥」
	「ちくびッ♥ ご容赦ッ♥ おひゃああッ♥ くっ、クリトリスッ、ご容赦ッ♥ ご容赦くださいィ……ッ♥ ひいいーーーーッ♥♥」
	「んひゅーっ……♥ んひゅーっ……♥ おっ、ふ……ッ♥ も、申し訳、ございません、でした……」
電気に怯えながら	「おッ、オチンポしゃぶりしか能の無い、フェラ豚でありながら……何度もご馳走頂いたザーメンを、区別することも、できず……」
	「み、皆様に、多大なご迷惑を、おおッ♥ おかけ致しましたこと……地べたに這いつくばり、お詫び申し上げます……っ♥」
	「申し訳、ございませんでしたっ！ 申し訳、ございませんでした……っ！」

「ふお゛っ♥ デ、デカケツ、電気ショック……ありがとうございますっ、ん゛っ、お゛っ♥ は、はい……その通りで、ございます……ッ」

「私は……能無し牝畜生の、雨月静奈はっ、あうッ♥ こ、このようにっ、お仕置き、されなければ……ッ、ああッ♥」

「ザーメンの味一つ、覚えることが、できないのです……ッ♥ 乳とケツだけがデカい、頭空っぽの、エロ豚、なのですうッ♥」

「は、はい……お願い、します……ッ ビリビリ折檻、くださいませ……空っぽの脳味噌に、精液の味を、焼き付けて、くださいませ……っ」

「……ふっぐっ♥ んふーっ、んふーっ……♥ ふっぎい゛ッ、いふッ、ふむうあッ♥ あ、ああ……申し訳、ありません……」

「ビリビリ、してもお、おお゛ッ♥ フェラを、やめません、やめません、からァ……はむっ、むっ、んんぐゥ……♥」

「んっふっ♥ ふう゛ッ、ふううう゛～～っ♥ んっあ゛ッ！ あう゛ッ、ううう……ッ、じゅるるッ♥」

「じゅっぷッ♥ ぷあうッ♥ んふっ、ふーっ……♥ ふッ、うううぅっ♥ んっぐっ、ふッ♥ ふうう……ッ♥」

「じゅぽっ、ぐぽっ♥ ぐっちゅっ♥ ふっ♥ んんっ、むうッ♥ ひゅッ、うう……」

フェラ音、時々電気ショックの音でフェードアウト

■4 蹂躙される尊厳と肛門 恥辱のケツ穴オナニーレビュー

スパンキングの音が数発。さらに悲鳴に合わせてスパンキングをお願いします

40%ぐらいの堕ち感で

「はーっ……♥ はーっ……♥ んお゛っ♥ ふ、不出来なデカケツ便器へのお仕置き、ありがとうございます。んん゛……っ♥」

「は、はい……♥ この度の不始末、原因は、私のケツが、魅力に欠けていたことに、あります」

「本来であれば、取引先の方に……ん゛っ♥ このデカケツを痴漢して頂くことで、有利な立場から、交渉するはずだったのですが……」

「プリプリのケツを押し付けても……お……っ、ミニスカートの裾をあげ、太ももを見せつけても……んっ」

「全く、手を出されることが無く……結果として、対等な立場での契約を、許して、しまいました。ふーっ……♥ ふーっ……♥」

「全ての責任は、ムチムチと肉が詰まっただけの、役立たずのデカケツ女、雨月静奈に、ございます」

「ど、どうか、お許し、をおッ♥ そしてっ、挽回の、機会、をおッ♥ おッ♥ ふおおお……ッ♥」

絶頂。ともにスパンキング終了

「ふう゛ーっ……♥ ふう゛ーっ……♥ は、はい……♥ 私は、ケツを、ひっ叩かれて……アクメを、しております……うぅッ♥」

「先週の、目隠し、ビリビリ責め以降……お゛っ♥ ぼ、暴力的に、扱われると、マン汁が、止まらなくなり……ん゛ッ♥」

「たっ、ただでさえ、セックス以外役に立たないカラダが……オチンポ奉仕もままならない、マゾ肉牝豚ボディに、なって、しまって……っ♥」

「わ、私は、もはや…… はーっ……♥ はーっ……♥ い、いいえ……契約の変更は、お断り、致します……」

「たとえ、まともな社会生活が送れずとも……皆様から縁を切られ、孤立したと、しても、お゛……っ♥」

「私は……この会社への……あの方への恩義を、忘れるわけには、いかないの、です……っ♥」

「はい……私の、デスクの上で……かしこまりました。ケツ穴とオマンコを見せつけて、しゃがめば良いのですね」

ガサゴソと音を立ててデスクの上で蹲踞している様子を表現して頂けますと

「こ、これで、よろしいでしょうか？ん、お゛……申し訳、ありません。もう、マン汁が垂れてしまって……」

「んお゛ッ♥ 使い物にならないマンコに代わって、ケツマンコを、特訓せよ、と……ッ♥ か、かしこまりました……♥ それでは……」

途中から懐かしそうに

「……はい？ ええ、そちらは、先代社長に頂いたお土産の数々です。あの方は、どこかへ行く度に妙な置物を買ってきて、私に…」

	「なッ……！？ そ、そんなこと……ッ」
	「い、いえ、仰る通りで、ございます。全ては、私のケツマンコの魅力不足が原因」
	「スカートの内側からでも、牝の香りがプンプン匂う、ドスケベアナルに作り替える他無い、と….」
気合を入れなおし 平静を装った声をだす	「……かしこ、まりました。では……先代社長から頂いた、形見ともいえる品々で…..ケツ穴オナニーをさせて頂きます」
	「ふーッ……♥ ふーッ……♥ こちら……はい。パリのお土産、エッフェル塔の模型、ですね」
	「思い出、ですか。は、話さなければ、なりませんか…..あッ♥ も、申し訳、ありません……ご命令に、従いますぅ……」
	「前社長は、フランス女性のたしなみを、よく教えてくださいました….高級ブランドで着飾る前に、教養を、身につけておけと…..」
	「パリの歴史や、社交界のマナーなどを、よく、教えて頂いて…..」
哀しみと怯えを噛み殺す	「……はい。それでは……前社長からの贈り物で……ドスケベケツ穴オナニー、開始いたします……」
	ケツ穴オナニー開始。以降、適宜くちゅ音を挿入して頂けますと
力む	「んっ、んん゛……ッ！ ふお゛っ、おおおぉーーッ…..♥♥ お゛ッ、あァ……ッ♥ ふ……っ、んふぅーっ……♥ ふうぅーっ……♥ 」
完全に余裕が無くなる	「は、はいィ……ただいまっ、挿入を、おおッ♥ 完了、いたしましたァ……ッ！」
	「おん゛っ♥ も、申し訳、ありません。ご命令は、オナニー、でございました。それでは….ふっぐ、ん゛んおおお……っ♥」
	「ふう゛ぅっ♥ う、動きがのろいとの、ご叱責ィ……ッ♥ 申し訳、ありません゛ん……ッ♥ 善処、致しますぅ……」
	「そっ、それではッ、これより、オナニーをッ、おお゛っ♥ おッ、押さないで、くださ……うんん゛っ♥」
	「は、はい……ッ？ これらの品が、ケツ穴ほじりに適しているか、評論しろ、と….おお゛ッ♥」

悔しさを噛み殺す	「ケ、ケツ穴オナニーレビュー、で、ございますか……く、ううう……っ！ か、かしこまりました……」
	「ま、まず……表面が、非常にざらざらと、しておりぃ……っ♥ 出し入れする度に、ケツマンコ、があ……めくりあがりそうで……くっ、おおっ♥」
	「そしてぇ……んほっ♥ せ、先端から、根元にかけてどんどん、太くなるので……徐々に、ケツ穴を、拡張できますう……」
	「んっふっ♥ い、以上の、ことから……え、エッフェル塔はぁ♥ キツキツのケツ穴も、問題無く、犯してくださる……」
	「初心者向け、ケツ穴ディルドーで、ありますぅッ♥ お゛っ、くお゛おおンっ♥」
	「お゛、ふうぅ……っ♥ ふう゛ーっ♥ ふう゛ーっ♥ お、お聞き苦しい、オホ声、誠に、申し訳、ございません」
	「で、ですが……んんんっ……！ もう、問題ありません。これからは、滞り無く、ケツマンコ抉りを……」
怯える	「は……別の、物で……？ そちらの、モアイ像で、ですか……！？ い、いえ……問題、ございません。そ、それでは……」
限界が近いオホ声	「ふーっ…… ふーっ…… いえ、少しだけ、息を整えようと……決して、おじけづいたわけでは、あッ、があ゛あああッ♥」
	「かッ、はア……ッ♥ お゛ッ、おう゛ッ♥ む、無理矢理、ねじ、込まれるなんてぇ……おッ、ぐほお゛おおおッ♥」
	「ん゛おッ♥ お゛ッほうッ♥ し、しますッ♥ ケツ穴ァッ、オナニーレビューッ、いたしますからァッ♥」
	「ですからッ、おはあ゛ッ♥ おやめ、くださいッ♥ どうかッ、ケツ穴いじめ、ご容赦ください゛ぃ……ッ♥」
	「はぁーっ……♥ はぁーっ……♥ お゛ッ♥ そ、それでは、モアイ像の、お゛ッ♥ ケツ穴オナニーレビューを、開始、しますう……ッ♥」
	「こちらの……、特徴はっ、ふお゛っ♥ と、とにかく、太く、硬くっ、う゛っ、うう゛ぅ……っ♥」
	「ケッ、ケツ穴がァ……ッ♥ 裂ける程に、拡張されて……ン゛んッ♥ すッ、少し、動かすだけで、ミチミチッ、と、お゛おンッ♥」
	「お゛ッ、ほっ、おお゛お……ッ♥ こ、ここっ、このようにィッ♥ 腹部を、圧迫してぇ……無様なオホ声が、おっ、抑えられなくッ、くほおッ♥」
	「はッ、はあ……ッ、満足に、呼吸も出来ず……ただただ、ケツマンコを、破壊されて、しまうのですうぅ……♥」

「い、いじょっ、以上の点からァ……モッ、モアイ像、はぁッ♥ ケツ穴、上級者向けで、ありィ……ッ♥」

「わッ、私のよう、にッ♥ 毎日っ、肛門開拓ッ、アナルレイプを受けているッ、ケツマンコ奴隷向けのお゛♥」

「ガチ太ッ、ケツ穴ディルドーで、ございま゛ッ、ふお゛ッ♥ お゛おッ♥ おッ、ほお゛おぉーーーーッ♥」

「ほおーっ……♥ ほおーっ……♥ お゛ッ、んッ、おおおぉッ♥ はっ、うう、う……っ」

「あ、う……かしこ、まりました。続いての、レビューは……それ、は……」

「はあ…… はあ…… はい……こちらは……入社初日に、前社長から頂いた、万年筆で、ございます」

目を伏せて涙をこらえる　「あの人が、事業を立ち上げた頃から、愛用していた、もので……私も、大切な交渉の時には、必ず……」

「(少し鼻を啜る) いえ、問題は、ありません……ケツ穴オナニーレビュー、開始しますぅ……」

「ん……っ、ふっ、ん……？ え、ええ……先ほどまでのモノと違い、上品かつ、洗練された……んッ！」

「……はい、申し訳ございません。正確に申します。ひどく短小で、頼りなく……全くと言っていいほど、快楽を感じません」

「ケツ穴の奥まで届かず、入っているのか分からない程の存在感の無さで、まるで、使い物になりません」

「……はい。分かりました。そのように、申します。(怒りを抑えて息を吸う)」

怒りを抑えた声色で　「前社長のモノは、私にとって、まるで役に立たない……クソ雑魚ケツ穴ディルドーで、ございます」

「……かしこまりました。ケツ穴オナニーレビューを終了します。使用した品々は、後程洗浄しますので、そちらに…おう゛うッ♥」

アナルレイプ開始　適宜ピストン音など挿入して頂けますと

「お、ん゛ん……ッ♥ ケッ、ケツハメッ、ありがとうございます……ッ♥ 私の薄汚いケツマンコを、使って、頂き……んっぐうッ♥」

「おッ、はうゥ♥ かッ、かしこ、まりましたアッ♥ それでは、僭越ながら……ケツ穴、オチンポレビューを、させて頂きますッ♥」

「ふぐッ……♥ んっふッ、ふう゛ぅ……っ♥ あああンッ♥」

「こっ、こちらは……COOのッ、オチンポ、ですッ♥ 最高、執行責任者に相応しいッ、強靭な、オチンポ、でぇ……ッ♥」

「おっふッ♥ ケッ、ケツッ♥ ケツマンコをッ、ゴリゴリと、削り……ひっぐッ♥ ふッ、うお゛ッ、ううッ♥」

「お、男らしくっ♥ 強力なピストンでえ……ッ♥ ひッ、いいッ♥ おッ、奥の奥までッ、届いてェ……♥」

「ふおお゛ッ♥ すッ、スパンキングッ、ありがとう、ございますッ♥ ん゛ッ、はあ゛ッ♥ ああ゛ッ♥」

「おっほッ♥ つよッ♥ つよいィ♥ あふッ♥ ふうン゛ッ♥ ひっ、ふおん♥ おおッ♥ あ、ありがとうッ、ございますゥ♥」

「デカケツを、叩かれながらのッ、おお゛ッ♥ ケツハメえ゛ッ♥ きッ、効くッ♥ ききますうッ♥ お゛ッ♥ ふおお゛んッ♥」

「もッ、もちろんッ♥ もちろんで、ございますッ♥ どの、ケツ穴ディルドーよりも、気持ち良く……く、ううう……っ」

「ぜ、前社長のモノなど、比較に、なりませんッ♥ ふお゛ッ♥ くッ、お゛あああンッ♥」

「こ、このオチンポこそおッ、優秀なッ、殿方の証で、ございます……ッ♥ ふごッ♥ おッ、ん゛おうッ♥」

「私のごとき牝豚が、なにを、どうしようと、敵わないという……絶対的な、優劣の証明でッ、ございますッ♥」

「ふお゛ッ、おお゛ッ♥ どッ、どうぞッ♥ なさって、くださいッ♥ ケツ穴に、射精、してください゛ィッ♥」

「うぐッ♥ ふッ、ん゛んうううううーーーーッ♥」

「ふーっ……♥ ふーっ……♥ ん……あ、ありがとう、ございましたァ……んお゛おッ♥♥」

「おッ、も、申し訳、ありませんッ♥ ただいま、ケツ穴が、ああッ♥ クタクタ、でして……ケツハメ、もう少し、お待ちを……おおおッ♥」

「い、いえ……命令に、逆らうわけでは……ふお゛ッ♥ おッ♥ くッ、ふおおおッ♥ はーッ……♥ はーッ……♥」

「か、かしこまりました……これより、役員の皆様方全員にケツハメをして頂き……んッくッ」

「全てのオチンポを、ケツマンコでレビュー……最も素晴らしかったケツハメオチンポに、感謝の騎乗位スクワット……」

「う、うう……問題ございません。皆様の命令に背き、契約を破る訳には、いかないのです……んおッ♥」

「どうぞ、ご自由に、お使いください。叩いて、ほじって、奥の奥まで嬲ってください。私、雨月静奈は、皆様のケツマンコ便器で、ございます…」

「ふお゛ッ、お゛ッ、ん゛んん……ッ♥ はッ、はい゛ぃッ♥ ケツハメレビューッ、開始しますッ♥」

「こっ、こちらのっ、オチンポはああッ♥ ふあッ♥ 先ほどの、モノより……ッ♥ お゛ッ♥ 奥まで、届いてェ……ッ♥」

「あ゛ッ、んっくぅ……ッ♥ お、お許しッ♥ ふッぐッ♥ ケツ叩きッ、お許し……ううんん゛ッ♥ お゛ッ、お゛おおぉーー……」

徐々にフェードアウト

■5 絶望のアクメ禁止令 淫売契約 ──牝畜条項──

ぴちょ、ぴちょ……と愛液の垂れる音。台詞が始まっても5秒に一回ぐらいのテンポで裏で流し続けてください

70%ぐらいの堕ち感。
疲労感もにじませて

「はぁーッ……♥ はぁーッ……♥ あ、う……おッ、おおォ……♥」

「か、かしこ、まりました……本日の、議事録、を……ん、ふうぅ……っ♥ は、はい……蹲踞の姿勢を……おおッ♥」

「も、申し訳、ありません。それでは……ア、アクメ禁止令の、執行状況について、ご報告、させて、頂きます……」

「皆様との契約締結から、一か月……度重なるアクメに、私の肉体は、深刻なダメージを受け……」

「今では、おッ♥ なッ、なんの刺激も無いのに……クリ勃起もっ、ミルク漏れもっ、止まらず……ッ♥」

「だらしなく、涎とマン汁を垂れ流し……ぴくぴくと、よがり続ける、有様でございます……っ♥」

「そんな私に、役員の皆様も、堪忍袋の緒が切れて……ついに、アクメ禁止令が、下されたのです……っ♥」

「オマンコでも、ケツマンコでも……ッ、何度挿入されても、決してアクメを迎えては、ならず……ッ♥」

「ちっ、乳首アクメもッ、ロマンコアクメ、もお゛……ッ♥ ありと、あらゆる、絶頂……アクメを、禁じられて、おりますぅ……♥」

せつなそうに

「うっひィ♥ はあァ……ッ♥ 日課の、セクハラもぉ……♥ こ、このようにぃ……カチカチの、勃起乳首を、弄られても……おっ、ひょおぉ♥」

「指先で、撫でまわし、息を、吹きかけられても……いいいぃ……♥ 決して、アクメに達しては、ならないのですぅ……っ♥」

「クッ、クリッ♥ クリトリスッ、いえ……ッ♥ ギンギンに勃起した、真っ赤な充血牝チンポもォ……ッ♥」

「ひゃっふ……っ♥ あ、あのひとの、遺品である、羽ペンでっ、こしょっ♥ ひょっ♥ こしょこしょっ、と、ほうおッ♥」

「どれだけ嬲られてもおっ♥ 玩具にされてもおッ♥ 私はッ、アクメしては、ならないのですぅッ♥ う、ふううぅーーッ♥」

「うーっ…… ふぅーっ…… は、え……？ おお゛ッ♥ もッ、申し訳ッ、ございませんッ♥ ご命令をっ、おッ♥ 聞き逃して……ひゃああッ♥」

「はっ、羽ッ♥ 羽っ、お許しッ、おふッ♥ ひゃふッ、ふひひぃッ♥ おへそッ、くすぐるのはっ、はひゃひゃアッ

「あッ♥ アクメッ♥ してしまいますッ♥ ひょあッ♥ イって、しまいますからッ♥ あッ♥ ひゃああッ♥」

「あ゛ッ……はあ゛ーッ……♥ はあ゛ーッ……♥ はい……仰る通りで、ございます」

疲労困憊

「私は……アクメ中毒なのです……っ♥ 絶頂を禁じられたことにより、一日中、体が疼き、集中力も低下して……」

「なにも、手につかず、職務でも、ミスを連発……先方にも呆れられて、業務の委託を、解除される始末……」

「ですがぁ……♥ アクメ禁止令を破る訳には、参りません……それは、皆様との契約違反に……あああ……っ♥」

心から辛そうに	「い、息を、吹きかけ、ないでぇ……うううっ♥ もう、限界、なんです……あッ♥ くううぅ……ッ♥」
	「はい……心得て、おりますぅ……皆様と締結した、淫売契約、牝畜条項……その内容は……っ♥」
	「甲は、乙に対して……ひっ♥ みっ、皆様方は、私に対して、絶対の命令権を、保有します……これは不可逆の権利で、ございます」
	「私に、歯向かう権利はございません……皆様方のご命令に背くなど、決して認められないのです……っ♥」
	「私が、アクメしてしまえば……それは……ああうぅっ♥ 契約を破棄するということ……経営権の譲渡が認められないということ……」
	「それだけは……なんとしても、阻止しないとォ……ッ♥ おッ♥ 乳首カリカリッ、やめてっ♥ やめてェッ♥」
心からの絶叫	「あっ、あのひとに、託されたのです……っ♥ 私を、女としてではなく、人として、見てくれた、ひとにィっ♥」
	「ほッ♥ はッ、はじめて、私の能力を、仕事を……認めてくれた人にィ……この会社を、託されたのですぅ……♥」
	「ですから……どんな辱めを受けようとも、私は……んッひいいィ……♥」
泣き叫ぶ	「おッ♥ おほうッ♥ ケツッ♥ ケツ穴ほじりッ、おやめくださいッ♥ イッ、いいッ♥ イってしまうッ♥ イってしまいますぅ……ッ♥」
	「お許しッ♥ どうかッ、おああッ♥ どうかッ、お慈悲をっ♥ ケツマンコッ、おおおッ♥」
	「んおッ♥ おッ、オマンコッ♥ オマンコリンチッ、もうやめてッ♥ やめてくださいィーーッ♥」
	「ムリッ♥ ふっぎいッ♥ 無理、なのですッ♥ 耐えられないッ、もうッ、おおッ♥ アクメが……あああぁッ……♥」
	「はあーッ……♥ はあーッ……♥ お許し、ください…… もう、嬲らないで…… このままでは、私は……♥」
	「アクメを、してしまいます……もう、耐えられないのです……どうか、どうか、お慈悲をォ……」
	「おお……ッ♥ もうッ、やめて…… うぅおおぉッ……♥ はい……反省、しております……っ♥」
	「女の、分際で……淫売の分際で……生意気にも、皆様の上に立ち……大変、申し訳ございませんでした……ッ♥」

「これからは、己の身分を弁えて、生きていきます……皆様の、トロフィーダッチワイフとして……ふぐッ♥ 誠心誠意、尽くします……」

「どこへでも、着いてゆきます……命じられるがままに、デカパイをっ、デカケツをっ、見せつけますぅ……」

「このエロい女が、皆様の所有物であると……役員の皆様が、他の殿方にマウントを取るための、肉トロフィーとして、一生懸命に、働きます……」

「ですから……ですから、どうか、この会社だけは、私に……♥」

お尻を叩かれる。

「……んんんッ♥ そッ、そんなァ……♥ 反省していると、申しているでは……あああッ♥」

「おッ、お乳ッ♥ だめッ、とまらなッ、いいいィ……♥ ミルクアクメッ、ふッ、うううゥ……ッ♥」

「おっ、お願いします……デカパイを、苛めないで、くださいィ……♥ デカケツを、叩かないでくださいィ……♥」

「いやらしく膨らんだ、みっともない性感帯は、私の、急所なのです……♥ 殿方の雄々しい手で触れられるだけで……ふッ、おおおッ♥」

「マゾアクメがッ、抑え、られなくてえッ♥ どうか、どうかァ……お見逃し、くださいィ……♥」

「これまでの失礼な態度もォ……ッ♥ 勘違いした振る舞いもォ……っ♥ 全て謝罪いたします……申し訳、ございませんでした……」

「己がオマンコであることを理解した上で、殿方への尊敬と感謝を忘れずに、生きていきます……♥ ですから……」

「おッ♥ ず、頭が高いと……仰る通りで、あります。お、お目汚し、失礼いたします」

ゆっくりと喋って
心からの屈服を示す

「私、雨月静奈は……能無しデカパイ女の分際で、社の経営に携わった、身の程知らずの売女でございます」

「そんな、愚かで救いがたい私に、牝豚としての生き方を、セックス女の分際を、教えてくださったのは…」

「こちらにおわす、優秀で、聡明な役員様たちです……生粋の肉便器である私に相応しい、雄々しい殿方です……」

	「デカパイと、デカケツ、ロマンコ、ケツマンコ……そして、オマンコ……ッ♥ このカラダの全ては、皆様の為にございます……♥」
	「いつ、なんどきでも、セックスに応じます……最高の快感を約束いたします……ですから、どうか、どうか……」
	「私のお願いを、お聞き届ください。どうか……この哀れな牝豚に、皆様のお慈悲を……アクメ禁止令の解除を、お願いいたします……♥」
	挿入
素っ頓狂なオホ声	「……ほおおおおおおおおおおッ♥♥♥！！？？」
	「あッ、アクメッ♥ アクメッ、アクメェ……ッ♥ おほッ♥ うううッ♥ あッ、あああああぁ……ッ」
	「お、オチンポでッ♥ セックスでぇッ♥ おッ♥ オマンコアクメ、キメてしまいましたァ……契約を、違反して……ふあ゛ッ、ああ゛ッ♥」
	「お゛ッ♥ ふお゛おおンッ♥ またッ、アクメするッ♥ オマンコイクッ♥ いッ、ふうううう―――ッ♥」
	「うッ、うううー―ッ……♥ ああ……ごめんなさい……ごめんなさいぃ……私は、なにも……お゛ッ、おおッ♥」
	「い、イヤです……ッ！ もう、命令に従う理由は……くおッ♥ おお゛ッ♥ つよッ、いィ……ッ♥ ん゛ッおっ♥」
堕ち感100%	「かしこっ、まりましたアッ♥ 議事録を……牝豚、雨月静奈がッ、アクメを決めた証拠を、記録いたしますゥ♥」
	「たっ、ただいまッ♥ ああッ♥ 私はァッ、雄々しい、オチンポに貫かれッ、へえうッ♥ イクッ、イックうッ♥」
	「あッ、アクメをッ♥ おおおッ♥ 腰をッ、叩きつけられる度にい……ッ♥ アクメを、味わっておりますうッ♥」
	「敗北、致しましたァ♥ 契約をッ、破ってしまいましたあ♥ なのにッ♥ なのにい゛ぃ……ッ♥」
	「命令のまま、議事録を、続けてェ……♥ へえうッ♥ 契約ッ、終わったのにィ……♥ いッ、いいい……ッ♥」
	「もう、逆らえないのですぅ……ッ♥ 雄々しい声で、命じられると……おおおッ♥ すべて、聞いてしまうのですッ♥」

「もう……骨の髄まで、奴隷になってェ……ッ♥ ふぐッ♥ んううううッ♥ んッ、あああああーーーーッ♥♥」

「おおッ♥ もうっ、許して、オマンコアクメッ、許し……んっふあああああーーッ♥♥」

「むっ、無理ッ♥ 無理ですッ♥ 無理にッ、決まっているのですッ♥ 勝てる訳が無いのですッ♥」

「毎日のようにッ、調教されッ♥ おおッ♥ 全身をオマンコに、改造されてェッ♥ あっくうッ♥」

「こんな……こんな淫らな体で、アクメ我慢などッ、出来る訳がァッ♥♥ あッ、ひああうッ♥ ゆっ、許してッ♥ 許してくださいィーーッ♥」

「おお゛ッ♥ そうですッ、私は、頑張りましたァッ♥ 最後まで、必死に……でもッ、でもおッ♥」

「女ッ、だからあッ♥ オマンコだからあッ♥ 結局、オチンポには敵わないのですッ♥ アクメを、こいねがってしまうのですうッ♥」

ピストン止む

「うッ、ううぅ……ッ♥ おねがいします、もうやめて……私が女だと、思い知らせ、ないで……」

ピストン再開

「はおお゛っ♥ わ、分かりッ、ましたぁッ♥ 天国の社長に、エロ豚謝罪、開始しますぅ……♥」

「しゃっ、社長ぉっ♥ 社長おぉーーッ♥ 申し訳っ、ありません゛ん……っ♥ あなたが託してくださった会社の中でぇ……♥」

「ドスケベッ、エロ豚セックスにッ、励んでおりますうッ♥ うお゛ッ♥ マン汁を噴き散らし、あなたとの思い出を、ケガして、おりますう゛ッ♥」

「ですがっ、ですがア゛ッ♥ 悪いのはッ、おお゛ッ♥ 悪いのは、あなたですッ、社長おお゛ッ♥」

「こんなっ、淫売のエロ豚を信じて、会社を託したァ……見る目が無い、あなたが悪いのですう゛ッ♥」

「デカい乳とデカいケツでッ、こんなカラダで、仕事なんて出来ないと、そう仰ってくださったらァ♥」

「私は、こんな目に遭わなかったのに……ッ♥ 全身オマンコ女に、ならなかったのにィ……ッ♥」

「くッ♥ おおおぉ……っ♥ はいっ、結びます……♥ 新たな契約を、牧豚終身雇用を、結びます。私は、もう、戻れませんから….」

「わッ、私、雨月静奈はァ……ッ♥ いつ何時もッ、デカパイミルクを貯めて、オマンコを暖めて、皆様のオチンポを、お待ちします….っ♥」

「ロマンコも、ケツマンコも、全て皆様方のモノでございます…..ッ♥ ご自由に、お使いください……ッ♥」

「どうか、私をッ♥ 雨月静奈をッ♥ 牧豚としてッ♥ 肉便器秘書として、可愛がってくださいませ…..ッ♥」

「ふうお゛ッ♥ オチンポッ、ありがとうございますッ♥ んっひいッ♥ お乳搾り、ありがとうございますッ♥

「ん゛ああッ♥ くッおッ♥ おおうッ♥ けッ、ケツッ♥ ケツマンコイクッ♥ おおおッ♥ イクうッ♥」

「ひょッ、うふあァ……ッ♥ ありがとう、ございま……うゥああッ♥ おッ♥ イクッ、またっ、イク……♥」

■6 付録 ～雨月静奈の本日のスケジュール～

平静だが、蕩けている。
完全に堕ちて肉奴隷だと
分かる声色でお願いします

「おはようございます。それでは、本日のご予定をご確認させて頂きます」

「まずはこれより、朝のフェラチオ奉仕を始めます。皆様のデカマラを、私のロマンコで丹念に磨き上げた後に、出社」

「役員専用トイレにて、指定された興奮剤を摂取。乳首とクリトリスがビンビンに勃起したことを確認した後に、スリングショットビキニに着替えます」

「その後、手錠で自らを便器に繋ぎ、無抵抗のデカパイマゾ便器となって、ご利用くださる皆様にNG無しでご奉仕いたします」

「正午、お昼の休憩の際には、デカパイミルクサーバーとして噴乳を開始。デカパイが空っぽになるまでミルクをひりだした後は…」

「皆様の精液をふんだんに利用したザーメンご飯にて栄養を補給いたします。もちろん、その際にもオマンコのご利用は可能です」

「午後からは、ドスケベ肉接待を開始。デカパイとデカケツを存分にアピールし、殿方をムラつかせ、皆様の交渉をサポートいたします」

「関係各社の方々につきましては、性癖も予習済みでございます」

「14時からのミーティングでは、ムチムチの太ももをガーターベルトで強調。16時からは、ドスケベランジェリーを汗だくワイシャツからスケブラさせて強調」

「いずれも、オチンポをムラムラさせるだけで、本番行為、ならびに性処理行為はお預け、とさせて頂きます」

「そして……勤務時間終了後は、SMクラブにて10時間のアナル調教。前回、浣腸プレイにて失禁してしまったお仕置きを、存分に与えて頂きます」

「以上が、本日のスケジュールとなりますが……もちろん、予定に無い奉仕も、全て対応させて頂きます」

「私は皆様のオチンポの為に存在する、デカパイムチムチ肉便器でございます」

「皆様がムラついたままにご利用して頂くことが、至上の悦びでございます」

「どうか、お嬲りくださいませ。おハメくださいませ。スケベ以外に何の価値もない淫売の肉体に、どうかオチンポをお与えくださいませ」

「そのうえで、皆様の貴き精液をお恵み頂ければ……これに勝る悦びはございません」

「それでは……本日も、肉便器秘書、雨月静奈のご利用を、どうぞよろしくお願いいたします……♥」